

# 気道異物の除去

## 1 傷病者に反応（意識）がある場合

- 傷病者に「喉が詰まったの？」と尋ね、声が出せず、うなずくようであれば窒息と判断し、直ちに行動します。
- 119番通報とAEDの依頼を誰かに頼むとともに、直ちに異物除去を試みます。
- もし傷病者が「咳」をすることが可能なら、「咳」をできるだけ続けさせます。

### (1) 異物除去の方法（成人・小児の場合）

#### ①腹部突き上げ法（別名：ハイムリック法）

- 腕を後ろから抱えるように回します。  
立っている場合は、自分の足を傷病者の足の間に入れます。  
※反応が無くなった場合の転倒防止になります。
- 片手で握りこぶしを作り、その「親指側」を傷病者の「みぞおち」と「へそ」の「真ん中」に当てます。
- その上をもう一方の手で握り、素早く手前上方に向かって圧迫するように突き上げます。（5回位試みる）



#### ②背部叩打法

- 膝をつき、傷病者を自分の方に向けて横に寝かせます。  
※傷病者が立っている場合や座っている場合は傷病者の後ろに回ります。
- 手の付け根で肩甲骨の間を力強く、連続で叩きます。



#### ポイント

- 妊娠している女性、高度な肥満者には、背部叩打法のみ行います。
- どちらか一方を数回行っても、効果がない場合は、もう一方を試みます。
- 異物が取れるか、反応がなくなるまで2つの方法を数回繰り返して続けます。

## 2 傷病者に反応（意識）がない場合

- 反応がない場合、あるいは最初は反応があり、応急手当を行っている途中にぐったりして反応がなくなった場合には、直ちに通常の「心肺蘇生法」を開始します。

